

阿寒湖畔自然体験活動～6年生（11月8・9日）

11月8日に6年1組が、6年2組は9日に阿寒湖畔自然体験活動へと出かけました。

10月17日の事前指導では、エゾシカの食害により、100年、200年と阿寒の森で生き続けた木々が、わずか一冬でどんどん枯れてしまうこと、中には、80%～90%が既に失われた木の種類もあることなどを知りました。6年生のみなさんはどう感じたでしょうか？

この日は、エゾシカの食害から木々を守るために、阿寒の森の木々にネットを巻く活動がメインでした。写真からは、大きなネットを仲間と協力しながら運び、巻いていく子供たちの様子が見えます。



「生態系のバランス」について考えることは、大人でも大変難しいと感じますが、様々な命が共存できるように知恵をしぼることは、人間にしかできないかもしれません。子供たちはこの作業を通して何を考えたでしょうか。答えが一つではないこの問題について、自分なりの考えを見付けてくれることを期待しています。

学校のプログラムとして阿寒湖畔を訪問するのは最後となりました。キノコ、虫たち、紅葉の美しさ、温泉、水、ザリガニ…色々な自然や生きものが多様に存在できるのはなぜなのか…毎年通い続けた阿寒の森のすばらしさを思い返しつつ、これからも縁のあるこの森に出かけたり関わったりして行ってほしいと思います。

「水切り」も最後…かもしれません。

